

# 令和元年度 函館市教育委員会委嘱研究モデル校の取組

函館市立戸倉中学校

## I 研究の概要

### 1 研究主題

新学習指導要領に対応した主体的な学びにつながる指導の工夫

### 2 主題設定の理由

本校生徒は、大変明るく前向きに学校生活を送っており、「校歌」と本校独自の「よさこい」に誇りをもつなど歴史や伝統を重んじる姿勢が特徴的である。「主体的に学び合い心豊かにたくましく活動する生徒の育成」を重点教育目標として掲げ、教育活動を推進している。

昨年度行った教職員へのアンケート結果を基に、新学習指導要領等、変革の時期であることに重点を置いた研究テーマの検討を進め、社会状況や教育の動向、そして生徒の実態と私たちの願いを総合的に考え、研究主題を設定した。

### 3 研究内容

#### (1) 1人1授業

1人1授業は形態を変えて実施する。7月と12月に「授業交流月間」を設け、相互に授業を参観し、授業交流シートに点数やコメントを記入する方式。1人につき2つ以上の授業を参観する。

#### (2) 全学級道徳授業公開

地域公開参観日に全学級道徳の公開授業を実施する。高丘・上湯川小学校の教職員に参観してもらい三校連携事業の一環とする。

#### (3) 戸倉中学校独自の「道徳評価文例集」

夏季休業中に道徳評価の戸倉中学校式文例集を全教員で作成し、その内容を精査・検討する研修を行う。

#### (4) 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み

移行措置として、校内研究授業が通常の教科で行われる場合、新しい評価の3観点で指導案を作成する。

## 4 研究計画

2年計画の1年目である今年度は、上記研究内容（1）～（4）の効率的な推進に向け、各種交流や研修を随時行っていく。研究協議の際は、ワークショップ型で教職員が主体的に研修へと参加できるよう配慮する。また、協議の柱の設定やグルーピング方法を検討し、工夫改善の上、効果的に実施する。

## II 具体的な取組

### 1 1人1授業について

授業交流シート					
___月___日(___) ___教時 科目___ 授業者___					
項目	具体例	評価			
授業構築	1 本時の目標を提示している。	A	B	C	D
	2 必要に応じたプリントや資料等を用意している。	A	B	C	D
	3 視聴覚機器の利用等、指導方法を工夫している。	A	B	C	D
板書	4 授業内容を構造的に示すものになっている。	A	B	C	D
	5 文字の大きさ等が適切であり、丁寧に書いている。	A	B	C	D
発問	6 全員に対して、分かり易い発問・支持をしている。	A	B	C	D
	7 多様な考えを引き出す発問になっている。	A	B	C	D
	8 補助発問等で思考を広げたり深めたりしている。	A	B	C	D
対応	9 一部の生徒に偏ることなく全員を参加させようとしている。	A	B	C	D
	10 机間指導等を行い、個に応じた適切な指導・助言をしている。	A	B	C	D
	11 生徒のつまずきをしっかりとらえている。	A	B	C	D
	12 生徒の学習状況を把握し、思考や活動に適切な時間をとっている。	A	B	C	D
コメント					
A：満足できる B：概ね満足できる C：普通 D：努力を要する					

一人につき最低2つの授業を参観し、交流します。

7月と12月は授業交流月間とします。積極的に参観してください。

上記のように簡易的な参観シートを作成し、12項目の相互評価によって、客観的かつ定量的に授業を分析し、その改善を図った。

### 2 「全学級道徳授業公開」について

11月1日に行われた地域公開参観日にて、全9学級において道徳の授業を公開した。生徒の実態に即し、内容項目を吟味し、さらには参観者と協働できるような授業内容の工夫を図った。3年生は体育館にて学年道徳を実施し、多数の参観者を含めたグループで議論や交流を行った。

### 3 「道徳評価文例集」について

全教員で分担し、全22個の内容項目を網羅した594通りの文例集を作成した。評価のポイントをしぼり、生徒の学習状況を3つの視点に分けて見取ったものと、個々の成長の様子を見取ったものの2つを評価項目とした。具体的な取組内容は下記の通りである。

#### (1) 評価材料の共通理解

評価する過程を重視し、毎時間どのような評価材料を蓄積していくのか、学校全体で共通理解を図った。生徒の自己評価や相互評価も積極的に活用し、蓄積していくことを確認した。

#### (2) 留意事項の確認

評価基準の設定や観点別評価を通じた見取りは行わないことなどの留意事項を十分に確認した。

#### (3) 具体的な評価方法等の検討・共有

学年ごとに評価資料や評価方法を明確にし、評価視点や評価結果等を教師間で検討し共有した。

#### (4) 発信方法等の検討・共有

学年末の通知表以外に、補助資料等を用いて、教育相談や懇談等で伝える方法を、検討し共有した。

### 4 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み

年度当初の計画では、校内研究授業にて新しい学力の3要素を用いた指導案を作成・検討する予定であったが、計画を変更し道徳授業となったため、今年度は実施しなかった。次年度、継続研究の予定である。

## III 実践の成果と課題

◇1人1授業の定量的な分析は現在集計中であるが、客観的なデータを根拠に授業改善を図ることで、授業の質は向上し、生徒の学力向上へつながると考えられる。学校行事や分掌業務が比較的集中していない期間を授業交流月間としたことが、効果的だったと考えられる。

◇全学級による道徳の公開授業を各小学校に呼びかけ多数参観していただいたことで、小中連携や9年間のカリキュラムマネジメントを意識した授業を構築するきっかけとなった。今後も交流を深め、9年間の見通しをもったカリキュラムを実施していく。

◇道徳の文例集を作成する際、全教員で分担した結果、教員が個々に道徳の評価について学び、深める機会となった。また、出来上がった文例集の内容を精査する研修も行い、文例集を活用する中で常に検討・改善していく風土を醸成することができた。

◇令和3年度の新学習指導要領完全実施に向けて、移行措置期間である今年度に新しい様式の指導案を作成する予定だったが、実施することができなかった。今後、新しい学力の3要素に関する研修を実施し、生徒の学習活動に対する教師側の視点を深めていきたい。

#### **IV 来年度へ向けて**

- ・2か年計画1年目である今年度で形作られた研究の土台を基に、さらなる授業改善、カリキュラムの見直し、特別の教科道徳の推進を図っていきたい。

# 道徳授業案

日 時 令和元年10月31日(木) 5校時  
生 徒 函館市立戸倉中学校3年A組(34名)  
授業者 教諭 山田 好一

## 1. 主題名

「臓器ドナー」(あすを生きる3 日本文教出版)  
《D(19)生命の尊さ》

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

## 2. ねらいと資料

小学校の段階では、特に高学年で、個々の生命が互いに尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生命に対する畏敬の念を育てられるよう指導している。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、小学校段階からの生命のかけがえのなさについての理解を一層深めるとともに、人間の生命の有限性だけでなく連続性を考えることができるようになっていく。学年が上がるにつれて、生命について、連続性や有限性だけでなく、自分が今ここにいることの不思議(偶然性)、社会的関係性や自然界における他の生命との関係性などの側面からより多面的・多角的に捉え、考えさせ、生命の尊さを理解できるようになり、かけがえのない生命を尊重することについてより深く学ぶことができるようになる。

この内容項目は、道徳科の内容全体に関わる項目であり、他の内容項目の指導においても、生命尊重に関する事項を扱う場合には、この内容項目との関連を意識するよう留意すべきである。また、あわせて教育活動全体の取組を通じて、自己肯定感や自己有用感の高まりから、生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような工夫も大切である。

## 3. 生徒の実態

#### 4. 本時のねらい

○臓器提供という現代的な課題を通して、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえないものとして尊重する態度を育てる。

#### 5. 本時の展開

生徒の活動	教師の活動	指導上の留意点
1. 自分にとって大切な人を想起する。	○親族や友人、恋人など身近にいる存在を想起させる。	・座席⇒一斉形態
2. 臓器提供意思表示カードと脳死について知る。	○本人の意志が必要であることや、事前に意思表示が出来る物であることに気づかせる。	・心停止と脳死の違いについて正しく理解させる。
3. 資料を通して脳死、臓器移植についての理解を深める。	○資料を配付し、補足説明する。	
4. 教科書を読み、状況整理をする。	○教科書範読。	・学習シート配布
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     質問1：あなたは臓器提供をしますか？その理由も書いてください。                 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     質問2：あなたにとって【大切な人】の臓器提供を許可しますか？その理由も書いてください。                 </div>		
5. 質問について考え、意見交流する。	○それぞれ理由や考えを発表させる。適宜、高井さんや新見さんの考えを提示して <b>多角的に捉えさせる</b> 。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートに理由と併せて記入させる。</li> <li>・双方の意見を取りあげ、交流を深めさせる。</li> <li>・移植をする、しないのみに焦点が当たらないように配慮する。</li> </ul>
6. 双方に込められた思いは何かを知る。 臓器提供をする… 臓器提供しない…	○共に命に向き合っていることに気づかせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臓器提供する、しないともに尊重されるべきであり、非難につながらないように配慮する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     どちらを選択しても【命や思い】は家族や友人につながっている。                      どちらを選択しても命は受け継がれている。                 </div>		
7. 学習シートに学んだことを書く。	○臓器提供する、しないだけでなく、命の有限性や連続性に気づかせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に登場する人物の心情や背景を考慮できるよう、支援する。</li> </ul>

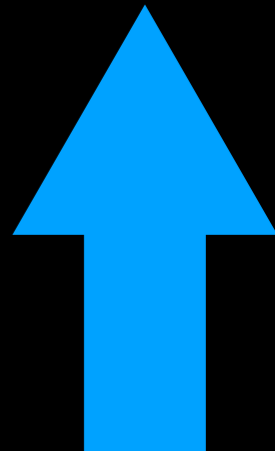
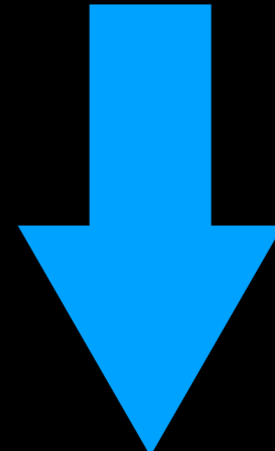
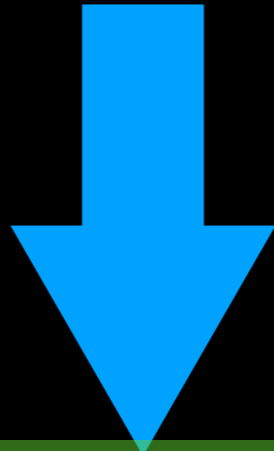
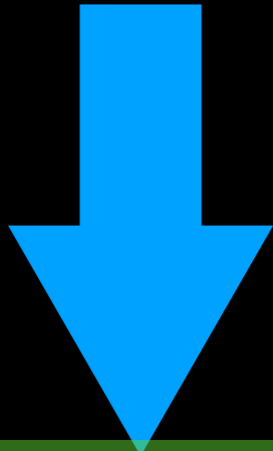
#### 6. 本時の評価

○授業に積極的に参加することができたか。（観察・発言）

○生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえないものとして尊重する態度が見られたか。（観察・学習シート）



生



脳死



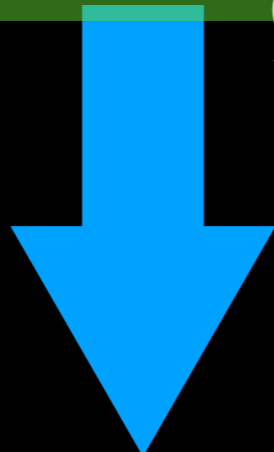
心停止

植物状態

1%

99%

多くは  
数日以内に



死